

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県下都賀郡岩舟町静1281-1 (電話) 0282-54-3133		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年9月4日	評価確定日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	7 人 6 人	常勤7人, 非常勤0人, 常勤換算7人 常勤6人, 非常勤0人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代 - 2,000円 ・おむつ代 - 150円/1枚 ・日用消耗品 - 150円/1日 ・教養娯楽費 - 100円/1日 ・光熱費 - 350円/1日 ・電気代 - 50円/1日/1点 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名	
要介護1		4 名	要介護2		6 名	
要介護3		6 名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	83 歳	最低	68 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松原医院、石川歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人木水会が運営するグループホーム八州苑いわふねは、平成16年、大型店の駐車場跡地の幹線道路から入った住宅街にありながら風情のある環境の中に位置している。「一人ひとりの人間性を重視すること」、「個人の生活歴を理解して居心地のよい生活を支援すること」、「家庭的な雰囲気の中で安心と喜び、自信が持てるように支援すること」、「落ち着いた穏やかな環境を提供すること」、「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援すること」を理念として、職員は入居者の生活を支えている。また、「ゆっくり、たのしく、いっしょに」の行動指針を定め、職員は入居者の役割、仕事、楽しみを見出し、入居者は落ち着いた穏やかな毎日を送られている。職員が入居者に教わりながら一緒に季節に応じた野菜づくりをしたりしている。ホームの庭園の庭木や草花が目を楽しませてくれ、居室からベランダ越しに自由に外に出て洗濯物を干すことができる環境が備わっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	温・湿度計の設置など、できるところからの改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	年1回の全ての職員による自己評価を実施し、月1回の個別評価を行いその結果を基に、ホームとしての自己評価をつくり、定例会議にて全職員で意見交換や検討会を行い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催して、自己評価(新方式)や意見、要望等のヒヤリング、助言、利用状況等を細かく報告している。また入居者家族の参加も呼びかけているが、現在のところ入居者のみの参加となっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族に手紙と写真を送付して近況の報告をしている。また2ヶ月に1回、定期的に法人の広報誌を発行している。家族の訪問時に金銭出納帳を明示し、報告をしている。重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口を明記して、契約時に説明をしている。また、6ヶ月に1回、家族にアンケートを送付して意見をいただいたり、家族の訪問時のヒヤリングを通して、意見を出しやすい環境づくりをしている。それらを管理者、職員は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	納涼祭や運動会など法人内施設の行事などで地域の方々と交流したり、ユニット間の交流や他の介護サービスの事業所との行き来などの交流の機会を持っている。自治会には加入していない。今後、運営推進会議の場を活かしながら地域の人々との双方向の関係づくりをしていきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	5つの理念（「入居者一人ひとりの人間性を重視します」、「個人の生活歴を理解し、居心地のよい生活を営むことができるように支援します」、「家庭的な雰囲気の中で生活することにより、安心と喜び、そして自信が持てるように支援します」、「落ち着いた穏やかな環境を提供します」、「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援します」）と3つの行動指針（「ゆっくり」、「たのしく」、「いっしょに」）を定めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、朝、夕、の申し送り時や、定例のスタッフミーティング時に唱和し、日々のサービス提供に反映している。両ユニットの玄関と共有空間の見やすい位置に理念等を明示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭や運動会など法人内施設の行事などで地域の方々と交流したり、ユニット間の交流や他の介護サービスの事業所との行き来などの交流の機会を持っている。	○	当ホームの立地条件等から自治会に未加入であるとのことであるが、自治会の加入の検討もしながら地域住民の一員として地域の人々が支えあう双方向関係が出来ることにより、より一層、地域に密着したホームとなっていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回の全ての職員による自己評価を実施し、月1回の個別評価を行いその結果を基に、ホームとしての自己評価をつくり、定例会議にて全職員で意見交換や検討会を行い、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回開催して、自己評価（新方式）や意見、要望等のヒヤリング、助言、利用状況等を細かく報告している。また入居者家族の参加も呼びかけているが、現在のところ入居者のみの参加となっている。	○	地域密着型サービス事業所として地域に開かれたホームとして、また様々な意見を取り入れるなどして更なる質の向上を図る意味でも、行政や地域の代表の方に会議に参加していただくなど、運営推進会議の持ち方・活かし方の検討に期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内の他の事業所と共に設立時から役場との連携は密にとれており、広報誌等を置いてもらうなど、お互いの意向はスムーズに伝達されている。	○	運営推進会議への町の参画を検討することにも期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に手紙と写真を送付して近況の報告をしている。また2ヶ月に1回、定期的に法人の広報誌を発行している。家族の訪問時に金銭出納帳を明示し、報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所の苦情相談窓口を明記して、契約時に説明をしている。また、6ヶ月に1回、家族にアンケートを送付して意見をいただいたり、家族の訪問時のヒヤリングを通して、意見を出しやすい環境づくりをしている。それらを管理者、職員は運営に反映させている。	○	家族にも運営推進会議への参加を呼びかけていることから、家族への報告の機会、意見や要望を伺う機会が増えるという意味でも、その実現に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の影響については配慮しているが、職員のスキルアップや適正を考慮して異動を行っている。法人全体で適応人材の配置をしている。異動決定の折には入居者の状態を考慮し、入居者と話し合い、歓送迎会を行ったりして、引継ぎ後も入居者が安心できるよう配慮をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内研修や外部研修に積極的に参加したり、時折レポートを提出したりしている。また月の定例会に研修結果報告の伝達等をして日々の助言も含めて、資質の向上のためにトレーニングを重ねている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を兼ねた交流の機会を持ったり、法人内の他の介護サービス事業所との勉強会や行事等に参加し、質の向上とネットワークづくりや相互交流の取り組みをしている。	○	法人内に3事業所、計5ユニットのグループホーム間での連携が図られていることを活かしつつ、職員が他法人の事業所とも交流できるような機会づくりにも期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みや他事業者から紹介があった時は、入居前に必ずホームに来ていただき、建物見学や入居者、職員の様子を確認していただいている。本人、家族と調整をしながら、場の雰囲気に馴染めるよう家族と相談しながら入居者の視点に立って柔軟に支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「ゆっくり、たのしく、いっしょに」を行動指針として、入居者から裁縫、畑仕事、料理等を教わりながら、傾聴や共感を心がけて、日常生活を支え合う関係を築いている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを利用して、入居者の希望、意向や趣味、嗜好等の把握に努めている。入居者の仕事、役割について入居者の視点に立った話し合い、また、入居者の日々の行動や表情等から希望・意向を汲みとりながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族とのヒヤリングをもとに、意見・要望を踏まえて計画を作成するよう努めている。日々の生活を介護記録に正確に記録して、医療関係者、職員等の意見を加味しながら、定例のスタッフミーティング等を通じてそれぞれの情報を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、3ヶ月に1回、担当者と計画作成者等がカンファレンスを行い見直しを行っている。入居者の状態が変化した時は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、随時見直しをして、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算、短期利用共同生活介護の指定を受けている。法人内で多くの介護保険事業を運営しており、入居者、家族の希望や状況を把握し、その時々々の要望や、身体機能の低下等について、法人内の事業所や協力医の協力を得て柔軟な支援をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの入居前の受診の経過や、現在の受診の希望を大切にし、入居者、家族と相談の上、かかりつけ医や協力医療機関等である法人の医院で適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から入居者、家族等と話し合い、入居者、家族等の意向やホームで対応しうる最大の支援方法を踏まえチームで方針を話し合っ共有している。「看取りの指針」を作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は毎日の介護を通して入居者の身体的状態、精神的状態を把握し、目立たず、さり気ない言葉かけや対応をしている。また、個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止について常に具体的に確認し合うことを大切にしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムやその日の望み（「今日どう過ごしたいか」）を知ることにより、お伺いをたててから希望に沿った支援をするようにしている。		

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや力を活かしながら入居者と職員と一緒に準備や食事、片付け等をしている。スーパーに買い物に行き食材を選んでいただいたり、本人の体調に合わせ、週に1度居酒屋を開催したりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴が出来るよう配慮している。13:30~17:00の時間帯で、くつろいだ気分で入浴出来るよう支援している。入浴を拒む入居者に対しては言葉かけや対応の工夫をしたり、シャワー浴にしたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日暮らしを共にする中で、一人ひとりにあった楽しみや役割の支援をしている。掃除、調理等できること、出来そうなことは職員と一緒に言い、入居者の馴染み深い仕事は職員の方が教えていただくなどしている。気晴らしの支援として昼食後に両ユニット合同でカラオケをしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として外出の機会を活かし、入居者の馴染みの店に行ったり、家庭菜園の育ち具合を確認に行ったり、天気の良い日には外で体操等をしたりしている。ホームでの対応が難しい場所のときは家族にその旨を伝えて、協力を仰いでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の了解を得て不審者、交通事故防止のために施錠をしている。各居室は施錠しておらず、囲いのあるベランダへは自由に出入りしている。外出の希望がある入居者には、その都度対応をしている。	○	交通量が比較的頻繁な立地など、ホームとしての気遣いや対応が必要な状況はあるが、地域住民、警察等の関係づくりをしながら、安心、安全かつ自由な生活の支援を追求していくことに期待したい。

グループホーム八州苑いわふね

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施しており、消防署との連携を取り、通報訓練等も実施している。年4回実施している。「子ども110番の家」など地域との連携もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、カロリーや栄養バランスを考えた献立を作成している。毎食後、食事摂取量や水分摂取量を確認している。		
2・その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の調度や備品（テレビ、ソファ、椅子等）は家庭で使用するようなものを置いている。畳部屋には掘り炬燵があり、入居者が自由に過ごせるスペースも確保されている。ユニット間の交流もある。音や照明、陽射しの調節等は入居者に確認しながら行っている。室内の装飾品は、季節に応じて入居者が作成した作品を飾ったりして、居心地良い空間づくりに配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室には使い慣れた家具やベット、写真、仏壇、神棚等が持ち込まれたりして、馴染みの部屋づくりがされ、居心地よく過ごせる工夫がされていた。入居者の状態に合わせて空調設定にも配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。